

教師対象パンフレット「難聴をもつ小・中・高校生の学校生活で大切なこと 先生編」

岡山大学病院 耳鼻咽喉科 片岡祐子

先天性難聴の早期発見・療育、早期人工内耳装用により、難聴児の聴取能や言語発達が向上していることも後押しし、インクルーシブ教育を受ける難聴児・者は増加し、その割合は支援学級も含めると60%以上にのぼるとされています。しかし補聴器、人工内耳を装用していても、正常聴力児と同等の聴取が可能なのではなく、学校生活において様々な場面で聞き取りにくさを抱えています。また教科学習、友人関係などの問題を抱える児も多く、配慮や支援を要します。しかしながら、本邦において特別支援学級であっても特別支援学校教諭免許を所有している教師は30%程度であり、教師側が難聴についての問題を十分認識できていない場合が多く、適切な支援が施されていないのが現状です。

そこで、難聴児の抱える問題を調査し、それらに対して必要な配慮や対応をまとめた教師対象のパンフレット「難聴をもつ小・中・高校生の学校生活で大切なこと 先生編」

(全14ページ)を作成しました。本冊子は、PDFにてダウンロードおよび複製可能な形式としています。どうぞご活用ください。難聴児の学校生活の充実、自己肯定感の形成の一助となることを願っています。